

様式1

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

- | | | |
|-------------|---|----|
| 必要最低科目数・単位数 | 2 | 科目 |
| | 4 | 単位 |

[illegible]

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	(データサイエンス入門) ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット(第1回、2回) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化(第11回) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会(第2回) (マルチメディア演習) ・生成AI(第1・7回)
	1-6	(データサイエンス入門) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)(第5回) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)(第4・5回) ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル(第14回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	(データサイエンス入門) ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど(第3回) ・1次データ、2次データ、データのメタ化(第3回) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)(第3回) ・データ作成(ビッグデータとアナライズ)(第3回) (データサイエンス入門) ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)(第3回)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)(第3回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど(第4回)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	(データサイエンス入門) ・データ解析:予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など(第5回) ・データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など(第5回)
	1-5	(データサイエンス入門) ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)(第3回) ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介(第12回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	(データサイエンス入門) ・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)(第7回) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト(第7回) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護(第7回) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)(第7回) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス(第1回、第10回)
	3-2	(データサイエンス入門) ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)(第8回) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取(第8回)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	(データサイエンス入門) ・データの種類(量的変数、質的変数)(第6回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(第6回) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値≠最頻値でないことが多い)(第6回) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値(第6回) ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)(第6回)
	2-2	(データサイエンス入門) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)(第6回) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)(第7回)
	2-3	(データサイエンス入門) ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)(第13回) ・データの集計(和、平均)(第7回、第9回) ・データの並び替え、ランキング(第12回) (マルチメディア演習) ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)(第9～13回)

⑦プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

これからのデジタル社会において、AIやデータサイエンスを日常生活や仕事で活用するための基礎的な学修に取り組み、情報やデータに対して自らの意志で適切な判断ができる知識を身につけるとともに、各分野においてデータサイエンスの恩恵を享受できる素養を身につけることができる。

- (1) 数理・データサイエンス・AIが社会にもたらした変化およびデータ・AIの利活用の最新動向について説明できる。
- (2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ・AIの活用領域について説明することができる。
- (3) データ・AIの利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。
- (4) 数理・データサイエンス・AIの利活用に当たり留意すべき事項(ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等)を説明できる。
- (5) データを適切に処理・分析し、データが持つ意味を説明できる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和7年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	16	人
(非常勤)	23	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

2	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	助川 公継
(役職名)	副学長、こども学科教授

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	教務委員会
------	-------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	茨城女子短期大学委員会規程
------	---------------

⑥ 体制の目的

教務委員会は、授業及び試験運営、学生の学籍管理、免許・資格課程、学外教育施設との共同事業、単位履修など、短期大学の教務に関する事項を心する組織である。教務委員会にて、「数理・データサイエンス・AI教育リテラシープログラム」の運営と改善、自己点検・評価に関する検討と審議を継続的に実施する。具体的には以下に掲げる事項について審議する。

- (1) 認定プログラムに関する計画・実施
- (2) 認定プログラムに関する改善・進化
- (3) 認定プログラムに関する自己点検・評価
- (4) その他、上記運営に係る事項

⑦ 具体的な構成員

副学長 こども学科教授 助川 公継
 こども学科 教授 安藤みゆき (委員長)
 こども学科 教授 小口 恵巳子
 表現文化学科 准教授 金子 未佳
 表現文化学科 准教授 吉村 風
 事務局教務係 主任 久須美雅子
 事務局教務係 清水 信子
 入試広報室長 峯 英統
 事務局長 長岡 徹

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	7%
令和8年度予定	30%
令和9年度予定	33%
令和10年度予定	36%
令和11年度予定	39%

具体的な計画

新入生オリエンテーションで現代社会におけるAIやデータサイエンスの必要性や本プログラムについての説明を新入学生全員に案内し、プログラムの学生認知度を高めるとともに履修を促す。

令和9年度からは、本学の「数理・データサイエンス・AI教育リテラシープログラム」が認定されれば、成績証明書にてプログラム修了証明が記載されることを対象学生に周知し、就職活動等でも有益であることを周知する。

令和8年度については前年度の周知状況と履修者数を参考に履修案内の内容や方法を見直す。また、1年次のみではなく2年次生にも未だ履修したことのない学生に対して改めて周知を行い、全学的に再度履修者を向上させる。最初のプログラム実施対象学年が卒業し、このプログラムにおける就職活動での活用等について意見が得られることから有用性を伝え履修率の向上につなげる。

令和9年度から11年度についても同様に前年度の周知状況と履修者数を参考に履修案内の内容や方法を継続的に見直し、履修率の向上を図る。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムを構成する2つの授業科目は、全ての学生が履修可能な教養科目として1年次から開講しており、学科を問わず希望する全学生が受講可能なカリキュラムとなっている。「マルチメディア演習」は基本的に学科毎に開講クラスを設定し、必要な授業担当教員を確保している。授業科目「データサイエンス入門」についても、履修を希望する全ての学生が履修可能な時間割の編成を行っている。

プログラムを進化・改善する組織である教務委員会は、全学共通科目の教育課程の運営・管理を所掌しており、各学科会議及び教授会には当該委員会を通じて情報共有が行われているため、全学的な連携体制が整っている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムを構成する授業科目を学科に関係なく希望する学生全員が受講可能であること及び履修・受講については年度始めのオリエンテーションならびに2026(令和8)年度履修登録表に記載するなど積極的な履修を促している。

また、学生掲示板に教育課程表やシラバスを掲載し、概要やスケジュールなど本プログラムの周知を行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

キャンパスには、コンピュータ演習室に50台と、図書館に10台程度のパソコンが設置されている。これらは、空き時間に開放されており、学生は自分の都合のよい時間にパソコンを使用して学習ができる環境にある。また、学内ではWiFiが常時接続可能となっているため、タブレットやスマートフォンなどの個人用端末の利用もできるため、通常の教室など場所や時間を選ばずに学習が可能である。また、個人用IDを通して、必要に応じてプログラム担当教員と双方向でのやり取りもでき、各学生のペースにあわせた学習も可能となっている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける仕組みとしては、次のようなものを設けている。

- ・プログラムを構成する科目を担当する専任教員はオフィスアワーを活用して学習指導を行うとともに質問を受け付けている。
- ・その他、Microsoft365のOutlookやTeamsのアプリを活用し、いつでも質問などを受け付ける仕組みを設けており、他の学生が質問した内容とその回答についても履修者で共有したり、授業の中で取り扱うなどの工夫をしている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

教務委員会

(責任者名) 安藤 みゆき

(役職名) 教務委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		教務委員会では、本プログラムを構成する「データサイエンス入門」と「マルチメディア演習」(いずれも1年次の教養科目)の履修・修得状況を継続的に把握し、分析を行っている。この分析に基づき、履修制度の改善や教育成果の確認、履修率向上のための具体的な方策を協議している。 令和7年度にこれら2科目を履修した学生は16名。今後も、履修指導体制の整備や、各学科のカリキュラムに配慮した時間割編成の検討を継続して検討していく。
学修成果		学修成果の把握については、本プログラムを構成する授業科目における学生アンケートをもとに分析し、担当者による自己評価シートを活用するとともに、全学生を対象に毎年度実施する「茨城女子短期大学・学生調査」の結果を分析し把握する。特に調査項目のうち、「18. 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能」の項目を分析することで、本プログラムの学修成果の定量的な把握が可能である。令和7年度については、今年度実施する予定である。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度		全学の授業科目を対象として実施している「授業評価アンケート」に加えて、本プログラムを構成する授業科目では、内容の理解度の調査を含めた独自のアンケートを実施し、活用している。 本プログラムを構成する2つの授業科目の履修者に対するアンケートでは、より具体的にモデルカリキュラムに対応した5つの審査項目に関する理解度の自己評価を調査し、教務委員会で情報共有し改善に生かしていく。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度		後輩等他の学生への推奨度は、現在実施している学生アンケートの「理解度」や「授業を受ける中で感じた良かった点や改善してほしい点」に加えて、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム修了者アンケート」において、友人や後輩に受講を検討している人がいたら、プログラムをお奨めすることができますか」という設問を設け、本教育プログラムの評価についてを検討したい。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況		本プログラムをより多くの学生に周知するため、各種オリエンテーションにおける説明時間の確保や、プログラムを紹介するWebページの内容を充実させるといった、学内広報を継続的に強化する。また、本学独自の縦割りのグループ活動を生かし、入学時オリエンテーション時に上級生からの履修科目に関する情報提供の場などを生かしていきたい。 また、選択科目として履修する授業科目を受講しやすくするための工夫として、配当学年や時間割編成の検討などを継続的にを行い、より多くの学生が本プログラムの修了を目指す環境整備を行う。
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		本プログラムは令和7年度から開始し、令和8年度は対象学年のすべての学生が在学中であるため、卒業後のデータに基づく評価結果は得られていない。 今後は、進路相談室が実施している「卒業生調査」などを活用し、本プログラムの修了者の卒業後の調査を継続的に実施し、進路や活躍の状況などについて確認を行う。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		本プログラムの教育内容を改善することを目的として、進路相談室が実施している「卒業生調査」への設問の追加や、産学連携の実績がある企業などを対象としたアンケートや意見聴取などを行う。具体的には、「本プログラムに今後期待することや、プログラムの充実に向けて具体的に必要だと思う取り組み」や「生成AIを有効に活用する力」「情報の正当性を判断する力、データ分析の限界を理解する力」などの育成が予想される。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		本プログラムを構成する授業科目では、履修者の意欲を引き出し、当該分野の学びの楽しさと、実社会とのつながりを通じた学びの意義を実感できるような授業を実践している。 1年前期の授業科目「マルチメディア演習」では、身近なデータを用いた演習に加え、アクティブラーニングの技法を取り入れ、学生同士の対話を通じて楽しみながら学べる工夫を行った。また、双方向的な学びの中で、日常生活におけるデータサイエンスの意義への理解を深めた。この科目は、1年後期に開設される「データサイエンス入門」を履修する上で前提となる知識を身につける科目となっている。 「データサイエンス入門」では、オープンデータや生成AIの活用をテーマとした演習を取り入れ、データサイエンスやAIがどのように実社会と関連しているかを楽しみながら学べる工夫を行った。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること		全学の授業科目を対象として実施している「授業評価アンケート」に加えて、本プログラムを構成する授業科目で独自に実施している理解度に関するアンケートを行い、授業の内容と教育方法に関する改善を継続していく。 モデルカリキュラムに準じた学修内容を保証しながら、履修者の所属する学科ごとの専門性を踏まえた「分かりやすい」授業を提供していくことが課題である。
※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		

ナンバリング	32200		科目名	データサイエンス入門	
担当教員	助川 公継				
年度	2025	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)	☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療)	

授業概要 数理・データサイエンス・AIは、私たちの日常生活や社会の諸問題を解決する有力なツールです。この講義では、数理・データサイエンス・AIがどのような領域でどのように利活用されているのかを現場での事例を挙げて説明します。また、数理・データサイエンス・AIの利活用に当たり、留意すべき事項についても解説します。さらに、データを適切に処理・分析する力を養うため、実データを用いた演習を行います。

到達目標

- (1) 数理・データサイエンス・AIが社会にもたらした変化およびデータ・AIの利活用の最新動向について説明できる。
- (2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ・AIの活用領域について説明することができる。
- (3) データ・AIの利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。
- (4) 数理・データサイエンス・AIの利活用に当たり留意すべき事項 (ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等) を説明できる。
- (5) データを適切に処理・分析し、データが持つ意味を説明できる。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション (授業の進め方、使用する機器など)
- 02 AIリテラシーとは (定義、必要性、生成AI)
- 03 社会でどのような変化が起きているか (ビッグデータ、IoT、Society5.0、データ駆動型社会)
- 04 社会でどのようなデータが活用されているか (人の動線をめぐるデータ、オープンデータ)
- 05 データ・AIを何に使えるか (活用領域の広がり、どう使えばよいか、エビデンスベース社会)
- 06 データ・AIの技術 (データ解析、可視化の手法、言語・画像・音声処理、AIの技術とは)
- 07 データを読み、説明し、扱う (データの種類、データの特徴 (真ん中、散らばり具合)、母集団と標本)
- 08 データ・AIを扱うときに注意すること (負の側面、ELSI、オプトイン・オプトアウト、データの正義)
- 09 データ・AIにまつわるセキュリティ (情報セキュリティの基礎、生成AIが生み出すリスク)
- 10 統計と数学の基本 (集合と場合の数、和の法則、積の法則、確率、確率分布、推測統計)

- 11 アルゴリズムとは何か（ハードウェアとソフトウェア、探索問題、局所最適、全体最適）
- 12 データの構造とプログラミング（プログラミングの歴史、データの構造、変数、条件分岐、繰り返し）
- 13 データを上手に扱うには（ビッグデータの収集、データベース、データ加工）
- 14 時系列データと文章データの分析
- 15 データ活用実践（教師あり学習と教師なし学習）

授業時間 【事前学修】

外の学修 シラバスで次の授業内容を確認し、課題内容に関する情報を収集しておくようにしてください。（2時間）

【事後学修】

自らの興味関心に基づいて、授業内容に関し調べたりまとめたりしてください。（2時間）

評価方法 (1)授業への取り組み(30%) (2)課題レポート(30%) (3)定期試験(40%)
<課題レポートの評価基準>
1. 決められた字数内で、誤字脱字がなく文章表現が適切か（10%）
2. 求められている課題に内容が即しているか（20%）
3. 指定されたフォーマットに即して作成されているか（40%）
4. 課題の考察が授業内容を加味したものになっているか（30%）

アクティブ ラーニング グループワーク、調査活動、プレゼンテーション

フィードバック ・授業内での話し合いや発表等については、その都度フィードバックを行います。

実務経験 ○ 小中学校や教育行政での勤務経験を生かし、統計的な考え方やデータの扱い方等について具体的例をあげながら授業を行います

教科書 岡嶋裕史・吉田雅裕共著「はじめてのAIリテラシー」 技術評論社

参考書 授業の中で紹介します。

備考 データサイエンスは人や社会を知る強力な武器になりますが、一方で強すぎる武器には歯止めをかける力も必要です。変化の激しい時代を生き抜く力として必要になってきます。使いこなせる側として日頃から関心をもって生活して欲しいと思います。

ナンバリング	33200		科目名	データサイエンス入門	
担当教員	助川 公継				
年度	2025	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 数理・データサイエンス・AIは、私たちの日常生活や社会の諸問題を解決する有力なツールです。この講義では、数理・データサイエンス・AIがどのような領域でどのようにに利活用されているのかを現場での事例を挙げて説明します。また、数理・データサイエンス・AIの利活用に当たり、留意すべき事項についても解説します。さらに、データを適切に処理・分析する力を養うため、実データを用いた演習を行います。

到達目標

- (1) 数理・データサイエンス・AIが社会にもたらした変化およびデータ・AIの利活用の最新動向について説明できる。
- (2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ・AIの活用領域について説明することができる。
- (3) データ・AIの利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。
- (4) 数理・データサイエンス・AIの利活用に当たり留意すべき事項 (ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等) を説明できる。
- (5) データを適切に処理・分析し、データが持つ意味を説明できる。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション (授業の進め方、使用する機器など)
- 02 AIリテラシーとは (定義、必要性、生成AI)
- 03 社会でどのような変化が起きているか (ビッグデータ、IoT、Society5.0、データ駆動型社会)
- 04 社会でどのようなデータが活用されているか (人の動線をめぐるデータ、オープンデータ)
- 05 データ・AIを何に使えるか (活用領域の広がり、どう使えばよいか、エビデンスベース社会)
- 06 データ・AIの技術 (データ解析、可視化の手法、言語・画像・音声処理、AIの技術とは)
- 07 データを読み、説明し、扱う (データの種類、データの特徴 (真ん中、散らばり具合)、母集団と標本)
- 08 データ・AIを扱うときに注意すること (負の側面、ELSI、オプトイン・オプトアウト、データの正義)
- 09 データ・AIにまつわるセキュリティ (情報セキュリティの基礎、生成AIが生み出すリスク)
- 10 統計と数学の基本 (集合と場合の数、和の法則、積の法則、確率、確率分布、推測統計)

- 11 アルゴリズムとは何か（ハードウェアとソフトウェア、探索問題、局所最適、全体最適）
- 12 データの構造とプログラミング（プログラミングの歴史、データの構造、変数、条件分岐、繰り返し）
- 13 データを上手に扱うには（ビッグデータの収集、データベース、データ加工）
- 14 時系列データと文章データの分析
- 15 データ活用実践（教師あり学習と教師なし学習）

授業時間 【事前学修】

外の学修 シラバスで次の授業内容を確認し、課題内容に関する情報を収集しておくようにしてください。（2時間）

【事後学修】

自らの興味関心に基づいて、授業内容に関し調べたりまとめたりしてください。（2時間）

評価方法 (1)授業への取り組み(30%) (2)課題レポート(30%) (3)定期試験(40%)

<課題レポートの評価基準>

1. 決められた字数内で、誤字脱字がなく文章表現が適切か（10%）
2. 求められている課題に内容が即しているか（20%）
3. 指定されたフォーマットに即して作成されているか（40%）
4. 課題の考察が授業内容を加味したものになっているか（30%）

アクティブ
ラーニング グループワーク、調査活動、プレゼンテーション

フィード
バック ・授業内での話し合いや発表等については、その都度フィードバックを行います。

実務経験 ○ 小中学校や教育行政での勤務経験を生かし、統計的な考え方やデータの扱い方等について具体的例をあげながら授業を行います

教科書 岡嶋裕史・吉田雅裕共著「はじめてのAIリテラシー」 技術評論社

参考書 授業の中で紹介します。

備考 データサイエンスは人や社会を知る強力な武器になりますが、一方で強すぎる武器には歯止めをかける力も必要です。変化の激しい時代を生き抜く力として必要になってきます。使いこなせる側として日頃から関心をもって生活して欲しいと思います。

ナンバリング	11242		科目名	マルチメディア演習	
担当教員	小松崎 浩司				
年度	2025	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☒ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☒ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 高等学校情報科「情報I」で学んだことを前提として、本学で2年間学ぶ上で求められる情報リテラシー、コンピュータリテラシーを演習形式で学びます

- 到達目標**
- (1)本学の情報システム環境を理解できます。
 - (2)情報リテラシーが身につきます。
 - (3)コンピュータリテラシーが身につきます。
 - (4)BYODによって、自己所有の機器の操作法が身につきます。
 - (5)クラウドコンピューティングの基礎が身につきます。
 - (6)授業時や社会人となった際に求められるPCの操作法が身につきます。
 - (7)わからないことがあったら自らすぐに調べる癖が身につきます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 この科目の進め方
 - ・学習環境構築 (Windows / macOS / ChromeOS / iPadOS / iOS / Android)
 - ・Microsoft 365 Copilotの基本操作
- 02 Microsoft 365 Copilotアプリに触れる(1)
 - ・Teams
 - ・SharePoint
 - ・Outlook
- 03 Microsoft 365 Copilotアプリに触れる(2)
 - ・Word (ワードプロセッサ)
 - ・印刷機能
- 04 Microsoft 365 Copilotアプリに触れる(3)
 - ・PowerPoint (プレゼンテーションツール)
- 05 Microsoft 365 Copilotアプリに触れる(4)
 - ・Visio (作図ツール)
- 06 Microsoft 365 Copilotアプリに触れる(5)

・Excel（表計算ツール）

- 07 Microsoft 365 Copilotアプリに触れる(6)
- ・Copilot（対話型生成AI）
- 08 スマートフォン・タブレットで録音して素材を作成する
（レコーダーアプリを使った録音）
- 09 録音したものを編集して音声作品を作る
- 10 音声作品を鑑賞して批評する
- 11 スマートフォン・タブレットで撮影して素材を作成する
（カメラアプリを使った撮影）
- 12 撮影したものを編集して映像作品を作る
- 13 映像作品を鑑賞して批評する
- 14 グループごとにテーマを決めてデータを収集し内容を読む
- 15 収集したデータを他グループに対して説明し、批評を受ける

授業時間 【事前学修】

外の学修 授業時間外もコンピュータ演習室や図書館、個人所有のPC、タブレット、スマホに直接触れる時間を増やしてください。また、次回授業で使用する、アプリケーションに関して、スマホ等に事前インストールを依頼することがあります。

事前学習に毎回2時間程度の授業時間外の学習が必要となります。

【事後学修】

授業時間内に適宜課題を出します。課題を中心に学修して理解を深めてください。

事後学習に毎回2時間程度の授業時間外の学習が必要となります

評価方法 課題(100%)

アクティブ
ラーニング

・ICTの活用
・BYODによる学内および学外（自宅、登下校途中）でのシームレスな学習

フィード
バック

Microsoft 365の共有機能を活用することによって、履修者毎の学習進捗に沿った助言を行っていきます。

実務経験

○ 民間企業でシステムエンジニアとして実務経験のある教員が、履修者に対して学生生活において求められる情報リテラシー、コンピュータリテラシーのみにとどまらず、卒業後企業におけるエンドユーザとしてICTを利活用できるスキルを身につけさせます。

教科書

参考書

備考

- ・内容によって教室、図書館、コンピュータ演習室を使い分けます
- ・資料はTeamsで配付します。
- ・毎回スマートフォンおよびPCまたはタブレットを持参してください。
- ・演習科目ですので、全回出席してください。
- ・やむを得ない理由で欠席する際は、担当教員およびグループワーク時はグループメンバーに欠席する旨を授業開始前までに連絡してください。

【カリキュラムマップ】

「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」モデルカリキュラムの

1. 社会におけるデータ・AI活用
2. データリテラシー
3. データ・AI活用における留意事項

を学びながら、1年後期開設科目「データサイエンス入門」を履修する上で前提となる知識を身につける科目となります。

ナンバリング	21211		科目名	マルチメディア演習	
担当教員	小松崎 浩司				
年度	2025	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☒ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☒ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 高等学校情報科「情報I」で学んだことを前提として、本学で2年間学ぶ上で求められる情報リテラシー、コンピュータリテラシーを演習形式で学びます

- 到達目標
- (1)本学の情報システム環境を理解できます。
 - (2)情報リテラシーが身につきます。
 - (3)コンピュータリテラシーが身につきます。
 - (4)BYODによって、自己所有の機器の操作法が身につきます。
 - (5)クラウドコンピューティングの基礎が身につきます。
 - (6)授業時や社会人となった際に求められるPCの操作法が身につきます。
 - (7)わからないことがあったら自らすぐに調べて、より正確な知識を身に付けていきます。

学位授与の方針【表現文化学科】

- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 この科目の進め方
 - ・学習環境構築 (Windows / macOS / ChromeOS / iPadOS / iOS / Android)
 - ・Microsoft 365 Copilotの基本操作
- 02 Microsoft 365 Copilotアプリに触れる(1)
 - ・Teams
 - ・SharePoint
 - ・Outlook
- 03 Microsoft 365 Copilotアプリに触れる(2)
 - ・Word (ワードプロセッサ)
 - ・印刷機能
- 04 Microsoft 365 Copilotアプリに触れる(3)
 - ・PowerPoint (プレゼンテーションツール)
- 05 Microsoft 365 Copilotアプリに触れる(4)
 - ・Visio (作図ツール)
- 06 Microsoft 365 Copilotアプリに触れる(5)

・Excel（表計算ツール）

- 07 Microsoft 365 Copilotアプリに触れる(6)
 - ・Copilot（対話型生成AI）
- 08 スマートフォン・タブレットで録音して素材を作成する
（レコーダーアプリを使った録音）
- 09 録音したものを編集して音声作品を作る
- 10 音声作品を鑑賞して批評する
- 11 スマートフォン・タブレットで撮影して素材を作成する
（カメラアプリを使った撮影）
- 12 撮影したものを編集して映像作品を作る
- 13 映像作品を鑑賞して批評する
- 14 グループごとにテーマを決めてデータを収集し内容を読む
- 15 収集したデータを他グループに対して説明し、批評を受ける

授業時間 【事前学修】

外の学修 授業時間外もコンピュータ演習室や図書館、個人所有のPC、タブレット、スマホに直接触れる時間を増やしてください。また、次回授業で使用する、アプリケーションに関して、スマホ等に事前インストールを依頼することがあります。
事前学習に毎回2時間程度の授業時間外の学習が必要となります。

【事後学修】

授業時間内に適宜課題を出します。課題を中心に学修して理解を深めてください。
事後学習に毎回2時間程度の授業時間外の学習が必要となります。

評価方法 課題(100%)

アクティブ
ラーニング ・ICTの活用
・BYODによる学内および学外（自宅、登下校途中）でのシームレスな学習

フィード
バック Microsoft 365の共有機能を活用することによって、履修者毎の学習進捗に沿った助言を行っていきます。

実務経験 ○ 民間企業でシステムエンジニアとして実務経験のある教員が、履修者に対して学生生活において求められる情報リテラシー、コンピュータリテラシーのみにとどまらず、卒業後企業におけるエンドユーザとしてICTを利活用できるスキルを身につけさせます。

教科書

参考書

備考 ・内容によって教室、図書館、コンピュータ演習室を使い分けます
・資料はTeamsで配付します。
・毎回スマートフォンおよびPCまたはタブレットを持参してください。
・演習科目ですので、全回出席してください。
・やむを得ない理由で欠席する際は、担当教員およびグループワーク時はグループメンバーに欠席する旨を授業開始前までに連絡してください。
【カリキュラムマップ】
「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」モデルカリキュラムの
1. 社会におけるデータ・AI利活用
2. データリテラシー
3. データ・AI利活用における留意事項
を学びながら、1年後期開設科目「データサイエンス入門」を履修する上で前提となる知識を身につける科目となります。

区分	科目	単位 授業の方法	必修	選択	開講時期						担当教員名	同時授業	卒必	司書	上級 習得士 (メディア リテラシー)	備考	
					1年生			2年生									
					前	通	後	前	通	後							
教養科目	人間と文化	日本文化	講義	2	○						金子未佳		△2		△16	△16	【教養科目】 卒業要件:14単位以上(必修含む) 「人間と文化」2単位以上 「人間と社会」必修を各6単位以上 「生活と科学」2単位以上 「実務と情報」2単位以上 ウィンドアサンブル入門 (◇年間15回)
	芸術に親しむ	講義	2	○						七字純子/長谷川裕久		△2					
	子どもと読書	講義	2			○				小林和子		△2	○				
	こども未来学	講義	2	○						こども学科教員		△2					
	ウィンドアサンブル入門	演習	1		◇					八木澤香葉		△2					
	人間と社会	日本国憲法	講義	2	○					小口恵巳子		△4					
	生涯学習概論	講義	2						○			△4	○				
	女性学	講義	2			○				小林和子/小口恵巳子		△4					
	女性と社会生活	講義	2	○						辻京子		△4		△16	△16		
	キャリア形成ゼミⅠ	演習	1			○				表現文化学科教員		○		○	○		
	キャリア形成ゼミⅡ	演習	1					○				○		○	○		
	生活と科学	生活と環境	講義	2	○						佐藤隆		※2				
	身体しくみと働き	講義	2			○				安嶋隆		※2			△16		
	データサイエンス入門	講義	2			○				肋川公雄		※2					
	実務と情報	マルチメディア演習	演習	2	○						小松崎浩司		□2		△16	△16	
	プレゼンテーション入門	講義	2			○				城雅文		□2					
	人間と健康	健康とスポーツ	講義	1							野沢恵子						
	実技	1		○													
	ダンス入門	実技	1	○							園府田はるか						
	外国語	英語Ⅰ-A	演習	1		○					内福真二		○				
英語Ⅰ-B	演習	1			○					内福真二		○					
専門科目	基礎ゼミナール	『読む』ということⅠ	講義	2	○						小林和子		○		△16	△16	【専門科目】 卒業要件:48単位以上(必修含む) 【必修】○24単位 【選択】※22単位以上 「文学を学ぶ」 「文化とことば」 「作品を創る」 「表現力を磨く」 「情報社会と表現」
	『読む』ということⅡ	講義	2							金子未佳		○					
	『書く』ということⅠ	講義	2	○						小野幸尚		○		△16	△16		
	『書く』ということⅡ	講義	2			○				小野幸尚		○					
	『話す聞く』ということ	講義	2	○						金子未佳		○		△16	△16		
	文学を学ぶ	日本語・日本文学の歴史	講義	2			○				小林和子		○				
	日本近代文学	講義	2				○					※22					
	古典の鑑へ	講義	2	○						石井純一		※22					
	国文学	講義	2			○						※22					
	文化とことば	書物論Ⅰ/4期	講義	1					○			※22	△2				
	漫画の世界	講義	2				○					※22					
	地域文化論	講義	2		◇					内橋/小林/小松崎/長谷川/金子/(填)/年3,4回		○	</				

● → 半期30回開講(週2コマ)

こども学科教育課程表(2025年度(令和7年)入学生)																		
区 分	科 目	単 位			開 講 時 期						担当教員名	卒 必	他二種	保育士	こども 音楽 教育士	准学校 心理士	備 考	
		授業の 方法	必修	選択	1年生			2年生										
					前	通	後	前	通	後								
教養科目	人間と文化	日本文化	講義	2							開講せず							【教養科目】 重要単位:14単位以上(必須含む) 「人間と文化」2単位以上 「人間と社会」2単位以上 「生活と科学」2単位以上 ウィンドアンサンブル入門 (◇年間15回)
		芸術に親しむ	講義	2	○						七字純子/長谷川裕久							
		子どもと読書	講義	2							開講せず							
		こども未来学	講義	2	○						助川/佐藤/小口/安藤/加茂川/馬立/園府田/森井/白土/八木澤			○				
		ウィンドアンサンブル入門	演習	1		◇					八木澤香葉							
	人間と社会	日本国憲法	講義	2	○						小口恵巳子		○					
		生涯学習概論	講義	2							開講せず							
		女性学	講義	2			○				小林和子/小口恵巳子	○		○				
		女性と社会生活	講義	2	○						辻京子							
		キャリア形成ゼミⅠ	演習	1			○				佐藤/助川/小口/安藤/加茂川/馬立/園府田/森井/白土/八木澤	○		○				
	生活と科学	キャリア形成ゼミⅡ	演習	1						○		○		○				
		生活と環境	講義	2	○						佐藤隆							
		身体のかみと働き	講義	2			○				安嶋隆							
		データサイエンス入門	講義	2			○				助川公維							
		マルチメディア演習	演習	2	○						小松崎浩司		○					
	実務と情報	プレゼンテーション入門	講義	2							開講せず							
		健康とスポーツ	講義	1			○				野沢恵子			○	○			
	人間と健康	実践	1															
		ダンス入門	実技	1	○						園府田はるか							
	外国語	英語Ⅰ	演習	2			○				内橋真二		○	○	○			
目 的	教育原理	講義	2			○				助川公維			○	○			【専門科目】 重要単位:48単位以上(必須含む) △ 実務経験科目	
	保育概論	講義	2			○				小口恵巳子			○	○				
	子ども家庭福祉	講義	2			○				安藤みゆき				○				
	心理学	講義	2				○			安藤み ゆ き					○	△		
	子ども家庭支援論	講義	2						○					○				
	保育原理	講義	2			○				小口恵巳子	○			○				
	社会的養護Ⅰ	講義	2				○							○				
	保育の心理学	講義	2			○				安藤み ゆ き	○	○	○	○	△	○		
対 象	子どもの理解と援助	演習	1						○				○	○	△			
	子どもの保健	講義	2			○				渡辺政子	○			○	△			
	子どもの食と栄養	演習	2						○					○				
	子ども家庭支援の心理学	講義	2						○					○	△			
	幼児理解と教育相談	講義	2						○					○	△	○		
	幼児と言葉Ⅰ	演習	1			○				八木澤香葉		○		○	○			
	幼児と言葉Ⅱ	演習	1			○				和泉田/八木澤: 清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶				○				
	幼児と言葉Ⅲ	演習	1				○			和泉田/八木澤: 清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶				△				
領 域	幼児と造形	演習	1				○			七字純子		○		○				
	幼児と表現	演習	1				○			加茂川くるみ			○	○				
	幼児と健康Ⅰ	演習	1			○				園府田はるか		○	○	○				
	幼児と健康Ⅱ	演習	1				○			園府田はるか				○				
	幼児と言葉	演習	1				○			森井榮治			○	○				
	音楽演習Ⅰ	演習	1					○								○		
	音楽演習Ⅱ	演習	1													○		
	音楽演習Ⅲ	演習	1					○		和泉田寛				○	○			
	幼児と環境	講義	2	○						助川公維			○	△				
	保育の計画と評価	講義	2				○			佐藤隆								
内 容・方 法	教育課程論	講義	2	○						加茂川くるみ			○	△				
	保育内容概論	演習	1			○				石井純一	○	○	○					
	保育内容演習(健康)	演習	1						○				○	○				
	保育内容演習(人間関係)	演習	1										○	○				
	保育内容演習(環境)	演習	1					○					○					
	保育内容演習(言葉)	演習	1					○					○	○				
	保育内容演習(表現)	演習	1					○					○	○				
	乳児保育Ⅰ	講義	2	○						横本祥子						○		
	乳児保育Ⅱ	演習	1				○			富田浩子					○			
	子どもの健康と安全	演習	1						○						○	△		
	特別支援教育の基礎	演習	2						○						○	△	○	
	社会的養護Ⅱ	演習	1						○					○	○			
	子育て支援	演習	1					○						○		○		
	教育の方法と教育メディア	講義	2					○					○	△				
	保育指導法	講義	2										○	△				
	研 究	ゼミナール	演習	2						○		○						
総合表現		演習	1							○		○						
実 習	教育実習指導	演習	1	○						加茂川くるみ/森井榮治			○					
	教育実習	実習	4					○		加茂川/森井/助川/小口/安藤/佐藤/馬立/園府田/白土/八木澤			○					
	保育実習指導Ⅰ-A	演習	1				○			佐藤隆				○			保育指Ⅰ-A(保育所)	
	保育実習指導Ⅰ-B	演習	1					○									保育指Ⅰ-B(施設)	
	保育実習Ⅰ(保育所)	実習	2				○			佐藤/助川/小口/安藤/加茂川/馬立/園府田/森井/白土/八木澤				○			保育指Ⅰ(保育所)	
	保育実習Ⅰ(施設)	実習	2					○						○			保育指Ⅱ(施設)	
	保育実習指導Ⅱ	演習	1					○							★			
	保育実習Ⅱ	実習	2					○							★			選抜: 3単位
	保育実習指導Ⅲ	演習	1					○								★		
	保育実習Ⅲ	実習	2					○								★		
実践演習	保育・幼稚園実践演習(幼稚園)	演習	2						○		○							
区 分	科 目	単 位	授業の 方法	必修	選択	開 講 時 期						担当教員名			こども 音楽 教育士		備 考	
						1年生			2年生									
						前	通	後	前	通	後							
実務 取得 科目	こども音楽療育士	こども音楽療育概論	講義	2	○							馬立明美			○		こども音楽療育士 必修○ 6単位	
		こども音楽療育演習	演習	1				○				馬立明美/八木澤			○		選択△12単位以上	
		こども音楽療育実習	実習	1				○				馬立明美/八木澤			○		合計20単位以上必要	
※基礎資格要件 1条校(学校教育法)の教員免許状または保育士資格を有する者、かつ所定の単位を修得した者(取得見込みを含む)																		

茨城女子短期大学委員会規程

(設置)

第1条 本学教授会規程第9条により、次の常設及び非常設の委員会を置く。

- (1) 教務委員会
- (2) 学生委員会
- (3) 生涯学習・地域連携委員会
- (4) 図書館運営委員会
- (5) 紀要委員会
- (6) 自己点検・評価委員会
- (7) 入学者選抜委員会
- (8) FD・SD委員会
- (9) 教員資格審査委員会
- (10) 認証評価委員会 (非常設)
- (11) 入試広報委員会
- (12) 進路相談委員会
- (13) 実習委員会
- (14) 子ども子育て支援委員会
- (15) 教学マネジメント委員会
- (16) 防災対策委員会

(目的等)

第2条 委員会の目的・審議及び分掌事項、構成、任期は、別表のとおりとする。

- 2 前項の他に必要に応じて他の委員会を置くことができる。

(構成)

第3条 委員会の委員は、学長が任命する。

(会議)

第4条 委員の中から学長により選任された委員長は、委員会を招集し、議長となり、その結果を教授会に報告し、委員会開催年月日を記した記録及び配布資料等一部をALO室に保管しなければならない。

- 2 委員長が事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が代行する。

(議事)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意によって決定する。

(内規)

第6条 各種委員会は、その運営上必要と認めた場合には、教授会の承認を得て内規を定めることができる。

(その他)

第7条 委員会は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は教授会の議を経て学長が決定する。

附則

この規程は、平成19年2月8日から施行する。

平成19年	11月	10日	一部改正
平成22年	2月	9日	一部改正
平成25年	4月	1日	一部改正
平成26年	4月	1日	一部改正
平成28年	2月	5日	一部改正
平成29年	5月	2日	一部改正
令和2年	4月	1日	一部改正
令和3年	4月	1日	一部改正
令和5年	4月	1日	一部改正
令和5年	12月	5日	一部改正
令和8年	4月	1日	一部改正

別表（第1条関係）

名称	教務委員会
目的	教務に関する事項を、全学的な立場から総括して企画、立案、調整する
審議・分掌事項	(1)カリキュラムの編成方針に関すること (2)各学科のカリキュラムの全般的調整に関すること (3)カリキュラムの研究・検討に関すること (4)試験、単位認定の基本事項に関すること (5)その他授業の基本事項に関すること
構成	各学科教員 教学課教務係
任期	2年

別表（第1条関係）

名称	学生委員会
目的	学生の指導及び生活支援等に関する事項について検討し、支援する
審議・分掌事項	(1)学生の福利厚生に関すること (2)学生の課外活動に関すること (3)学生の安全確保に関すること (4)その他学生生活の支援に関すること
構成	学生部長 事務局長 各学科教員 教学課学生係
任期	2年

別表（第1条関係）

名称	生涯学習・地域連携委員会
目的	本学の特性を生かした生涯学習の機会を通して、地域社会との連携に資する
審議・分掌事項	(1)公開講座開催の企画・立案・運営に関すること (2)委託事業等に関すること (3)地域連携事業等に関すること
構成	各学科教員 事務局職員
任期	2年

別表（第1条関係）

名称	図書館運営委員会
目的	図書館の運営を円滑に行う 円満なる学内情報ネットワークの運用にあたる
審議・分掌事項	(1)資料収集の方針に関すること (2)図書館に関する規則、および実施細則の制定、ならびに改正に関すること (3)情報化推進のための基本方針及び運用に関すること
構成	各学科教員 図書館長 図書館員1名
任期	2年

別表（第1条関係）

名称	紀要委員会
目的	『研究紀要』を刊行する
審議・分掌事項	(1)『研究紀要』刊行の計画立案・原稿募集・原稿受付に関すること (2)『研究紀要』の編集・刊行に関すること (3)『研究紀要』の配布に関すること
構成	各学科教員
任期	2年

別表（第1条関係）

名称	自己点検・評価委員会
目的	教育、研究、社会的サービス・成果の還元、運営・管理事業に関する点検、評価を実施する
審議・分掌事項	(1)その方針と実施計画の策定に関すること (2)点検、評価項目、基準等の設定に関すること (3)その結果の分析とそれらに基づく改善、向上措置の提言、勧告
構成	学長 副学長 ALO 学科長 事務局長
任期	2年

別表（第1条関係）

名称	入学者選抜委員会
目的	入学者選抜を円滑かつ適正に行うための基本方針の企画立案・調整し、あわせて教学の立場から入学者選抜の実施にあたる
審議・分掌事項	(1)入学者選抜の実施にあたり、必要な業務・立案・調整に関すること (2)入学者選抜の問題作成と採点及び面接委員等の決定に関すること (3)その他入学者選抜の実施に関して必要と認められること
構成	学長 副学長 学科長 事務局長
任期	2年

別表（第1条関係）

名称	FD・SD委員会
目的	教職員の資質の向上に関わる取り組みを行う
審議・分掌事項	(1)教員の資質向上に関わること (2)職員の資質向上に関わること (3)教職員の組織力の向上に関わること
構成	学長 副学長 学科長 事務局長 その他必要に応じて学長が委嘱する者
任期	2年

別表（第1条関係）

名称	教員資格審査委員会
目的	非常勤を含め教員の資格要件の審査等を行う
審議・分掌事項	(1)基幹教員の採用に当たっては、学校法人大成学園(1308)職員採用規程に於いて、教員資格審査委員会は、「大成学園職員採用規程」の選考第5条に関する所に於いて、資格要件の審査等を行ない、その結果を理事長に報告する (2)基幹教員の資格については、短期大学設置基準第7章教員の資格に準ずるものとする (3)学歴、職歴、研究業績、教育業績並びに学会及び社会における活動の状況 (4)音楽、美術、体育等の諸学科において、研究業績によって資格審査することが困難な場合には、学術技能に秀で教育経験を有する者とする (5)助教、講師、准教授、教授の資格審査 (6)教授並びに准教授の昇任に当たっては、本学教員昇任基準内規並びに教授・准教授昇任についての適用基準内規によるものとする (7)在職教員の担当教科目等の適正について
構成	学長 副学長 学科長 事務局長 その他必要に応じて学長が委嘱する者
任期	2年

別表（第1条関係）

名称	認証評価委員会
目的	自己点検・評価委員会と連携した点検・評価を行い、認証評価に当たっての企画・実施・運営を行う
審議・分掌事項	(1)認証評価を受けるに当たっての準備に関すること (2)評価の基本方針と実施案の作成に関すること (3)認証評価を受けるに当たっての「自己点検・評価報告書」の作成
構成	学長 ALO 副学長 学科長 各種委員会委員長 事務局長
任期	2年

別表（第1条関係）

名称	入試広報委員会
目的	学生募集に関する活動を行う 大学案内・広報誌の刊行等広報活動の企画・実施・運営をする
審議・分掌事項	(1)大学案内・広報誌の刊行等広報企画に関すること (2)高校訪問企画・実施等に関すること (3)進学情報の提供業者対応に関すること (4)オープンキャンパス等の行事に関すること
構成	各学科教員 入試広報室長 事務局職員
任期	2年

別表（第1条関係）

名称	進路相談委員会
目的	学生並びに卒業生の就職及び大学等への編入対策について指導、支援を行う
審議・分掌事項	(1) 学生の就職に関する企画・立案・指導・支援に関すること (2) 学生の大学等への編入に関する指導・支援に関すること (3) 一般企業・公共団体・保育園・幼稚園・認定こども園・社会福祉施設・大学等との連携、調整に関すること
構成	各学科教員 進路相談室長 事務局職員
任期	2年

別表（第1条関係）

名称	実習委員会
目的	実習の適正かつ円滑な運用を図るため、教育・保育実習に関する事項の審議、調整、議決を行う
審議・分掌事項	(1)実習に関する企画及び立案に関すること (2)実習の指導内容に関すること (3)実習に係る学生の指導に関すること (4)実習内規に基づく学生指導に関すること (5)実習生の配当に関すること (6)実習園・実習施設巡回に関すること (7)実習の成績評価及び単位認定に関すること (8)その他実習に係る必要な事項
構成	こども学科教員 事務局職員 その他必要に応じて学長が委嘱する者
任期	2年

別表（第1条関係）

名称	子ども・子育て支援委員会（子ども・子育て支援センター）
目的	地域の子どもとその保護者への相談・支援活動を行う ・大成学園幼稚園・子育てひろば「ぼぼ」の共催 ・音楽療育ワークショップの開催 ・親子音楽あそび〈ポップ〉の開催 ・大成学園額田保育園・子育て支援「ぬかつぼ」の共催 ・保育者への研修の場の提供 等
審議・分掌事項	(1)地域の子ども・子育て支援に関すること (2)地域の発達相談・支援機関との連携に関すること (3)地域の保育所・幼稚園・認定こども園との連携に関すること
構成	こども学科教員
任期	2年
主管事務	担当教員（こども学科より選出）

別表（第1条関係）

名称	教学マネジメント委員会
目的	本学がその教育目的を達成するために必要な管理運営を行う
審議・分掌事項	(1)「三つの方針」を通じた学修目標の具体化 (2)授業科目・教育課程の編成・実施 (3)学修成果・教育成果の把握・可視化 (4)教学マネジメントを支える基盤（FD・SDの高度化、教学IR体制の確立） (5)情報公表
構成	学長 副学長 学科長 事務局長 その他必要に応じて学長が委嘱する者
任期	2年

別表（第1条関係）

名称	防災対策委員会
目的	防災管理の徹底を期し、もって火災等の災害の発生を未然に防ぐとともに、災害による物的・人的被害を最小限にとどめるための活動を行う
審議・分掌事項	(1) 防火・防災計画及び実施案の策定 (2) 防火、消防、防災設備等の点検ならびに対策強化 (3) 防火・防災思想の普及および高揚 (4) 自衛消防訓練、避難訓練等の実施に関すること (5) 工事等をする際の火災予防対策に関すること
構成	防災管理者 その他教職員の中から学長が指名する者
任期	2年

茨城女子短期大学 教務委員会規程

(名称)

第1条 茨城女子短期大学に、教務委員会（以下「委員会」という）を置く。

(構成員)

第2条 本委員会は、副学長、教務委員長、学科教務担当、事務局長、教務主任、教務係（免許・資格担当）をもって組織する。

2 教務委員長が特に必要と認めたときは、他の教職員を本委員会に出席させることができる。

(委員長)

第3条 本委員会に委員長をおく。

2 委員長は本委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に支障のあるときは、委員長が指名した構成員がその職務を代行することができる。

(審議事項)

第4条 本委員会は次の各号に定める事項について審議する。

- (1) カリキュラムの編成方針に関すること
- (2) 各学科のカリキュラムの全般的調整に関すること
- (3) カリキュラムの研究・検討に関すること
- (4) 授業、試験、単位認定の基本事項に関すること
- (5) 学生の学籍管理に関すること
- (6) 免許・資格課程に関すること
- (7) その他教務に関する重要事項

(報告)

第5条 委員長は、本委員会の審議結果を教授会に報告しなければならない。

(事務担当部署)

第6条 本委員会に関する事務は、教務係が担当する。

(雑則)

第7条 本規程に定めるもののほか、本委員会の議事及び運営に関し必要な事項は、本委員会において定める。

附則

この規程は、平成19年2月8日から施行する。

平成19年11月10日 一部改正

平成22年 2月 9日 一部改正

平成25年 4月 1日 一部改正

平成26年 4月 1日 一部改正

平成28年 2月 5日 一部改正

平成29年 5月 2日 一部改正

令和	2年	4月	1日	一部改正
令和	3年	4月	1日	一部改正
令和	5年	4月	1日	一部改正
令和	5年12月	5日		一部改正
令和	8年	4月	1日	一部改正

大学等名	茨城女子短期大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育リテラシープログラム	申請年度	令和8年度

プログラムの目的

データサイエンスとは、現代社会のあらゆる分野で蓄積されているさまざまなデータを収集・分析し、有効に活用する学問です。変化を続ける現代社会では、自らが研究したい専門分野の知識に加えて、データ処理能力や分析力を身につけた人材が求められています。「数理・データサイエンス・AI教育リテラシープログラム」は、数理・データサイエンス・AIのリテラシーレベルの基礎的な知識・技術について学び、データ分析において重要な概念を身につけ、身近な問題解決に活かすスキルを持つ人材を育成することを目的とした教育プログラムです。

身に付けられる能力

- (1) 数理・データサイエンス・AIが社会にもたらした変化およびデータ・AIの利活用の最新動向について説明できる。
- (2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ・AIの活用領域について説明することができる。
- (3) データ・AIの利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。
- (4) 数理・データサイエンス・AIの利活用に当たり留意すべき事項(ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等)を説明できる。
- (5) データを適切に処理・分析し、データが持つ意味を説明できる。

科目	マルチメディア演習 (2単位)
構成	データサイエンス入門(2単位)

修了要件 上の表で指定された合計2科目4単位を修得することでプログラムの修了となります。

運営・改善
教務委員会
点検・評価

○ 履修者・修了者数

<授業担当者>

・授業評価

<FD・SD>

・授業改善アンケート

<進路相談室>

・卒業生調査
・産業界の意見

